

下高生の恋愛観とは？



2020年(令和2年)

1月10日

金曜日

発行所

茨城県立下妻第一高等学校新聞部

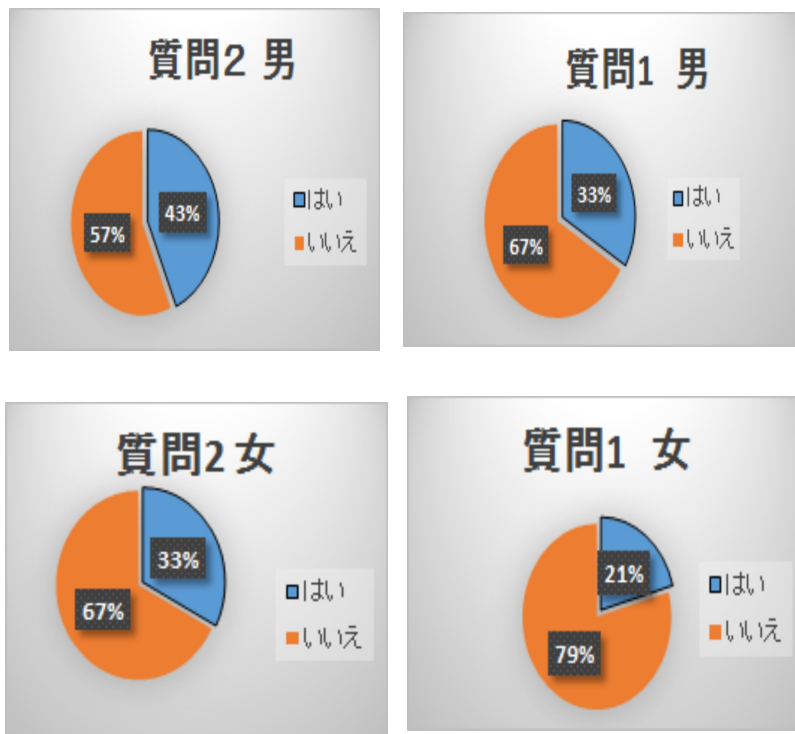
発行人 吉田俊則

編集人 稲葉啓斗

新聞部は、恋に関するアンケートを2019年10月10日に実施した。対象は、1学年の男女、273名だ。本アンケートでは、高校1年生の恋愛観に関する質問を8問用意した。今回は男女で回答の傾向が違った質問、4問に注目してみた。

質問1 一目惚れをしたことがありますか。

質問2 1億円と恋のどちらかを選ぶ際に、恋を選びますか。

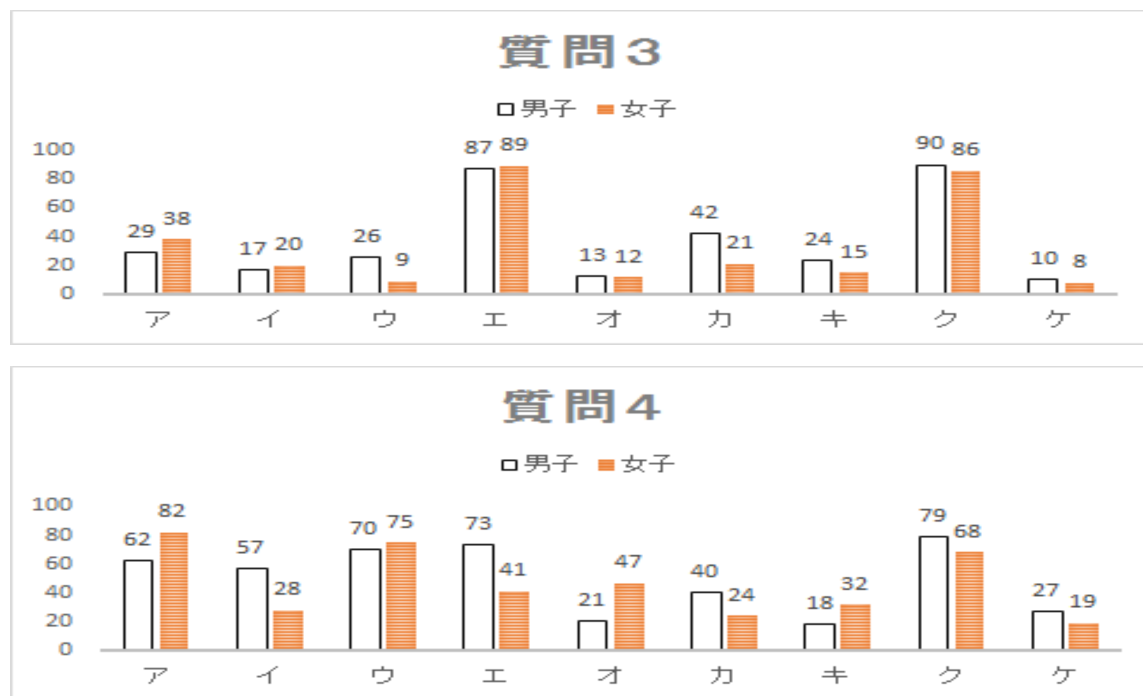


次に、複数回答可の質問である。男女別に回答数がそれぞれ異なったので、ランク付けしてみたところ以下のような結果になった。

質問3 あなたは恋に対して、どのようなイメージがありますか。

- 男子
- 1位 (ク) 人生を楽しくする
 - 2位 (エ) 青春
 - 3位 (カ) 数学よりも難しい
 - 4位 (ア) 憧れ
 - 5位 (ウ) 人生で1度経験しないといけない
 - 6位 (キ) 理解できれば苦労しない
 - 7位 (イ) 面倒臭い
 - 8位 (オ) しなくてもよい
 - 9位 (エ) 青春
- 女子
- 1位 (エ) 青春
 - 2位 (ク) 人生を楽しくする
 - 3位 (ア) 憧れ
 - 4位 (カ) 数学よりも難しい
 - 5位 (イ) 面倒臭い
 - 6位 (キ) 理解できれば苦労しない
 - 7位 (オ) しなくてもよい
 - 8位 (ウ) 人生で1度経験しないといけない

恋愛アンケート結果報告



質問4 理想的な奥さん、旦那さんを記号から選んでください。

男子

- 1位 (ク) 気が利く
- 2位 (エ) 顔がいい
- 3位 (ウ) 話が面白い
- 4位 (ア) 包容力がある
- 5位 (イ) 料理上手
- 6位 (カ) スタイルがいい
- 7位 (ケ) その他
- 8位 (オ) 高学歴・高収入
- 9位 (キ) 高身長・低身長

女子

- 1位 (ア) 包容力がある
- 2位 (ウ) 話が面白い
- 3位 (ク) 気が利く
- 4位 (オ) 高学歴・高収入
- 5位 (エ) 顔がいい
- 6位 (キ) 高身長・低身長
- 7位 (イ) 料理上手
- 8位 (カ) スタイルがいい
- 9位 (ケ) その他

7位のその他では、「優しい」「趣味が合う」「楽しい」「わがままを言わない」などという回答が多く見られた。

◆総括して

高校生といえば青春。その1つとして「恋愛」が挙げられる。そこで新聞部は下高生の恋愛事情を調査しようと今回のアンケートを実施した。アンケート結果から大半の人は「恋」や「恋愛」を前向きに捉えていると分かった。またパートナーの理想像として主に内面を重視していると分析できた。パートナーに対して居心地の良さを求めているのであろう。恋に興味があってもなくても、異性との関わりを大切にして充実した高校生活を送ることが必要である。

(渡邊)

囲碁将棋 勝利の「一手」を

今回は囲碁将棋部を取材した。部長の中根慎悟さん(2年2組、以下中根さん)、中山直樹さん(2年1組、以下中山さん)、鶴山旺鉦さん(2年7組)、飯塚太一さん(1年7組)、鈴木隆治さん(1年7組、以下鈴木さん)にお話を伺った。

「すことです」と中根さんは語った。

囲碁・将棋を指す際の集中力を高める術として「集中しすぎないこと」と中根さんは説明した。矛盾しているように聞こえるが実は理にかなっている。集中し続けるとかえって集中力低下を招くからである。また囲碁・将棋の激しい心理戦に臨むために日々の同部活動での対局を怠らない。対局では2手先までを考えて、判断において神経を研ぎ澄ましていくという。さらに対局中冷静でいるために盤

「大会では自分の王が詰まされるまで諦めない」と中根さん。大会では自分の悔いが残らないように1手ずつ指すことを意識している。

「大人になっても囲碁・将棋を好きでいること」が同部活動の理想だと中山さんは語る。勝利の「一手」を目指しながらも囲碁・将棋を楽しむことを心がけ日々練習に精進している。

最後に囲碁将棋部では部員を募集しているそうだ。気軽に文化棟2階の部室へ見学に来て欲しいという。囲碁将棋部の発展を祈念いたします。

(稲葉)

購買こだわり多い斉藤商店

今回は多くの生徒が利用している購買部の斉藤商店に取材をした。下高ではお弁当が1番売れている。お弁当は1日に40個〜50個作っており、それらはすべて斉藤吉男さんと斉藤まさ子さん夫婦(以下、斉藤さん夫婦)の娘さんがその日に作っている。前日の夜はタレなどを作り、当日は朝早くから3時間かけて作っているそうだ。しかし、パンも含め商品は余ることがあり、自分たちで食べることもあるが、多くは捨ててしまうという。それでも斉藤さ

ん夫婦の娘さんは当日作ったものでないと売りたいという気持ちで毎日心を込めてお弁当を作っている。

パンは「ヤマザキ」から仕入れており、子どもたちが喜びそうなものを選んでいく。しかし、みんなの好みは十人十色なので難しいという。月に1回新商品を仕入れていくが、下高生はその商品を見てはくれるが、生徒にとっては食べたことがないのだから売れないのだ。斉藤商店で売られている商品の1つである「ホワイトデニッシュ」は何年も前から売られ

「最後に、「下高生はい子ばかりだね」と言ってくれました。(館野)

「最後に、「下高生はい子ばかりだね」と言ってくれました。(館野)